

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 8 日作成)

| | | |
|---------------------|--|------------|
| 委員会名 | 農村エコシステム小委員会 | 主 査 名：沼野夏生 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 農村計画委員会 | 委員長名：伊藤庸一 |
| 設 置 期 間 | 2002 年 4 月 ~ 2006 年 3 月 | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 | 人間活動によって支えられる農村エコシステムの全体像の解明、特に集落域におけるエコシステムの全体像の解明、農村エコシステムを持続的に維持するための計画論の確立等。 上記のことを明らかにするために、広く公開研究会や現地研究会を開催する。 | |
| 委員構成 (委員名(所属)) | 伊藤春樹(聚文化研究所)、糸長浩司(日本大学)、井原満明(地域計画研究所)、浦上健司(インテージ)、大野啓一(横浜国立大学)、加藤仁美(九州大学)、川嶋雅章(明治大学)、栗田和弥(東京農業大学)、斎木崇人(神戸芸術工科大学)、瀬沼頼子(昭和女子大学)、中村攻(千葉大学)、沼野夏生(東北工業大学)、橋本忠美(農村・都市計画研究所)、藤沢直樹(日本大学)、守 隆(リバーサイドコーポレーション) | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | なし | |
| 2004 年度予算 | 165,000 円 | |

| 項 目 | 自己評価 |
|-----------------------|---|
| 委員会活動状況 (開催日・参加人数) | 8 月 31 日(火)：北海道大学 E312 教室、参加者 5 名 その後日程が取れず、通信による会議を 12 月 3 日に行った。また中越地震の後、委員の提案を受け有志が現地調査を行った。 |
| 得られた成果 | (成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 循環型地域づくりを実践して成果をあげている北海道下川町を対象に、農村建築研究会の共催を受け、9 月 1 日(水)～2 日(木)の日程で見学会・現地研究会を行った(建築雑誌で参加者を公募)。参加者は 16 名(8 名は農村建築研究会)、うち委員外の学生会員 4 名の参加があった。 中越地震の後、3 名の委員が 11 月～12 月にかけて現地調査を行った。これは小委委員長の把握のもとに個別に行われたものであるが、その後の農村計画サイドからの集落防災研究への動きに対して貴重な知見をもたらした。 下川町の地域づくり、中越地震における集落防災と再建、農村エコシステム論などを内容とする(仮称)農村エコシステム論集を企画し、年度末の発行をめざしてとりまとめ中である(現在 7 名がエントリー) |
| | 委員会 HP アドレス： 未作成 |
| 目標の達成度 | (当初の活動計画と得られた成果との関係) 現地研究会を 2 回予定していたが、1 回にとどまった。研究会の成果を論集の形で残すことを目標とした点については、現時点では未発行であるが目途がたっている。科研費応募については諸般の事情から実現できなかった。 全体として、予定した目標には足りないもののある程度までの進捗があったと考えている。しかし小委員会の設置期間終了まで残り 1 年であり、これまで以上に委員会の活性化を高めて行く必要がある。 |
| その他評価すべき事項 | 見学会等を通じて、大学院生の学生会員とのつながりができ、論集へのエントリーなど新しい局面が生まれた。委員の活性化を促すためにもいい刺激になることを期待したい。 |